

家族といろいろ話すること、それが一番の楽しみでした

田伏美代さん 九十四歳



赤羽の岩淵で生まれ育ち、ずーっと赤羽。小学校も岩淵の小学校に入
って。それからしばらくいましたよね。何年くらいだったかな？

戦争始まったのは岩淵小学校に入った頃。疎開は父親が王子製紙に勤め
ていたから、静岡の用宗っていう所で疎開。父の実家の方です。

水がね、凄く綺麗よ、ね。美味しかったですよ。何でもね。うん。果物豊富だ
ったしね。 あっちだったら、やっぱり二十世紀梨かな。凄くおいしかったです。
思い出ではね、ありますね。四人兄弟。私が長女。妹がいてね。それで弟がね、い
ましたよね。そうね。海がそばだからね。よかったですね。 お魚もね、おいしい。
食べ物はずっとな、苦勞しなかったね。水が綺麗だった頃には、ウナギの養殖場が
あったり。

母の手伝いは良くしました。私はね お料理なんか作るの好きだから。
静岡で、海に近いから、漁を終えた船が着くと汽笛が鳴るから、あれですよね。
ブリキの入れものを持ってお魚を買ってきて捌くんですよね。捌いてカメの中
に味噌漬けを作っておいてそれに漬け込んでおいて。それで、焼いて、食べるんで
すよね。それがすごくあの油気があって美味しかったですよね。
兄弟は、料理を作るまでは、お手伝いをしなかったんだよね。 私がほとんど料
理をやっていましたね。

静岡市の大空襲の頃はね、すごかったですね。港へ 上陸してきましたよね。
うん、 ああ、飛行機がね。見えましたよね。丁度見えて、御前崎半島に口206が
飛んできて、そりゃもう弾がいっぱい海の中に落ちて。そういうのもね、目の前に
見ましたしね。 住んでる町のところまでは来なかった。それは、その体験はねや
っぱり覚えてましたね。 うん。怖い思いもしましたよね。色々ね。

防空壕の中に入ってね、ああ。兄弟ね。親がみんな集まって。いましたよね。防空壕、大きいですよ。中がね。みんな、みんなこう入って集まってね。中がね、広いからね。家族だけじゃなくて、ご近所の方も みんな入れます。お友達も来たり。防空壕の中に飲み水はね、あの頃ね ありましたよね。

静岡の用宗に父さんが王子製紙務めてたから、静岡にいたのは、やっぱり長かったんですね。

戦後、被災を免れた岩淵の家に戻ってきて、結婚は しましてね。うん。私は遅かったのね。三十五歳の時。夫は新潟の人でした。お見合いでもないし 紹介でもなかったですね。主人は働き者でした。最後は、西ヶ原の小学校の警備員までやりましたね。働いた期間は長かったですね。優しい、優しかったですよ。うん。なにしろ働きもんだったですね。それで私の母親のこともすごく可愛いがってくれてね。母もすごく喜んでね。三人で暮らしてたのね。子供はね。私が若い頃 子宮筋腫して子供ができなかつたんですけどね。母親は、外が好きだから、よくね、散歩に出かけましたよ。旅行もね。何しろ外が好きな母でした。

料理のほうは、自分で買ったものでなくて、作っていましたね。私は何でも作って、作るのが好きでしたから。主人は、私の料理が好きでしたよね。

お漬け物つけたりしましたよ。らっきょう漬けたりね。白菜を漬けたりね。お味噌もね。自分で作りましたよね。梅干しもね。あたしが好きな食べ物、やっぱりお魚の焼いたのね。

楽しい思い出は、あれですよね。やっぱりね、家族と会っている話することかな？ うん。それが一番の楽しみでしたよ。